

准看護師1年を振り返って

(准看護師 渡部美海)

この一年間を振り返ってみると、長いようであつという間の一年だったと思います。初めは、業務や患者さんの名前を覚えることに必死で、自分の目指している看護が出来ず、患者さんや先輩方に迷惑をかけてしまっているのではないかと不安になることもありましたが、でもその不安は、プリセプターをはじめ、先輩方の指導のおかげで、徐々になくなりました。看護をしていくうえで大切なことは沢山ありますが、新人の私にとって、『報告・連絡・相談』が重要だと改めて学ぶことができました。自部署の夜勤は看護職2名と介護員1名の3人体制です。そのため、常に報道相を行うことで安全な看護が提供できるのだと実感しています。准看護師として初めての現場に戸惑うことも沢山ありました。しかし、プリセプターやスタッフの方々の指導のおかげで多くの学びを得ることができました。今後もその学びを忘れずに、2年目も日々成長していけるように頑張っていきたいと思っています。

プリセプターをして

(准看護師 相澤小枝)

准看護師になって、初めてプリセプターをすることになりました。プリセプティに寄り添う気持ちを持ち続け、一緒に勉強していこうと心に決めて挑むことにしました。実際、指導において私自身が理解していないこともあり、マニュアルを振り返ったりして一緒に学びを深めました。チームや病棟スタッフもプリセプティと私を支えてくれました。プリセプティの看護に対するまっすぐな姿勢と適応能力の高さで、いち早くチームの一員となり、たくさん活躍してくれました。私はその成長がうれしく、もう親心でした。笑

この一年、プリセプターを通し私自身の看護の振り返りともなりました。人に教えるということは自分自身も理解していないとできないことであり、自分への課題が沢山出てきました。学びを止めず学び続けようと思えました。そしてプリセプティには感謝しかありません。頼りないプリセプターでしたが、一緒に仕事をしてくれてありがとうございました。2年目へのステップアップを応援していきたいです。

師長より
 プリセプティ(新卒者)の学ぶ意欲や姿勢にプリセプター(指導者)がしっかりと応え、周囲のスタッフはその両者を温かく見守り支援してくれた一年間でした。美海さんの存在は病棟にとってもよい刺激となり、看護を深める有難い機会となりました。今春もまた新卒者をお迎えしています。新卒者、ベテラン看護師等、様々な視点から患者さん・ご家族様にとってよりよい看護となるよう新卒者と共に学び、指導していこうと思います。

(2病棟師長 佐藤里沙)



我が家には小学校2年生の男の子、幼稚園年長と年少の女の子の3人の子供たちがいます。毎日朝から騒がしくて、静かになるのは子供たちが寝ていない時だけです。「足こつちに向けないで!」「お昼寝布団踏んでない!」等々!。(そんなこととてケンカしないですよ!心の声)とつい「はあ〜」と漏れるため息。しばらくすると、3人仲よく遊んでいたり、「にいの足こつせ!」と足を嗅ぎ合ったり、笑っていたり、仲が良いか悪いのか、仲よく遊べるならずっと仲よくしてくれ!これが母の本音です。(笑)日々いろいろありますが、3兄妹に振り回されていますが、3兄妹も成長してくれ、母は願うばかりです。

春となり新たな年度に入る時期となりました。寒さから抜け出した四月は新芽も芽吹き、花々が咲く心弾む季節の始まりです。ようやくコロナウイルスの感染者数も、全世界のみならず日本でも減ってきました。山形県においても然りです。ワクチンの接種効果もあつたと思いますが、基本的な感染対策も功を奏したと考えられます。対策にはやはり、最善の手はありません。順仁堂遊佐病院では徹底的に防衛対策を実行してまいりました。その効果の左証として当院では、県内唯一入院患者クラスターを出していません。これは徹底したウイルス感染対策の成果であると思っております。さて今後はどのような方向で進んでいくのでしょうか。官民一体となつてなる予防対策がなされておりますが、これからはこのコロナウイルスが、季節性のインフルエンザ感染のような推移をたどるような気がいたします。その前提としては抗ウイルス剤の開発が早急に望まれるところであります。最近のことですが



春を迎えて

順仁堂遊佐病院 院長 佐藤卓

春となり新たな年度に入る時期となりました。寒さから抜け出した四月は新芽も芽吹き、花々が咲く心弾む季節の始まりです。ようやくコロナウイルスの感染者数も、全世界のみならず日本でも減ってきました。山形県においても然りです。ワクチンの接種効果もあつたと思いますが、基本的な感染対策も功を奏したと考えられます。対策にはやはり、最善の手はありません。順仁堂遊佐病院では徹底的に防衛対策を実行してまいりました。その効果の左証として当院では、県内唯一入院患者クラスターを出していません。これは徹底したウイルス感染対策の成果であると思っております。さて今後はどのような方向で進んでいくのでしょうか。官民一体となつてなる予防対策がなされておりますが、これからはこのコロナウイルスが、季節性のインフルエンザ感染のような推移をたどるような気がいたします。その前提としては抗ウイルス剤の開発が早急に望まれるところであります。最近のことですが

報道されました。それは鼻腔からの噴霧での吸入様式で、針を使わない体により優しい接種方法なのです。医療の現場ではこのように、日々新たな革新がなされています。この一例を踏まえ、コロナウイルスの鎮静化に医療面で大いに期待が持てる年度になればと思っております。私も遊佐の地に医者として戻り、約十四年となりました。前院長の後任として様々な役割を引き継ぎましたが、その中で地道でも約十七年間続けていたことでもあり、この度は学校医としての表彰をいただきました。この時の懇談の場、ある人が私が米国留学中に癌の研究を行っていたことを知つた一つの質問をしてきました。それは「癌の進展に個人差があるのはなぜか」との疑問なものでした。私は驚きました。それは私が、大学で外科の医局から研究のために病理学教室に出向した時に抱いていた癌に対する疑問そのものだったからです。私はこの時、「それは癌の細胞には個々に不均一性がある。葉や放射線、温度や免疫に対してなどの感受性での強弱があり、そのために人の体内の癌細胞のその生き残りには違いが出て来る。つまり個々の細胞の悪性度にも差があり、ひいてはそれが生命予後にも影響している」との返答をしました。私の研究のメインテーマは、癌細胞を攻撃して死滅させる特異的なキラーT細胞の研究でした。しかしサイドローマは癌細胞の持つペロロジェネティク(不均一性)についてでした。ヒューストンの癌研究にての Maus での研究では、個々の癌細胞の持つ抗がん剤に対しての効き目の違い、すなわち薬剤感受性の違いを明らかにいたしました。「癌組織を構成する癌細胞は均一な集団ではない」とのこと、一つの証明の研究だったのです。

訪問看護ステーションゆざからのお知らせ

「病気や障害があつても、住み慣れた我が家で安心して暮らしたい」という利用者さんの思いを支援いたします。24時間体制で安心して自宅療養できるよう支援させていただきます。

訪問看護は、介護保険・医療保険どちらの保険でもご利用いただけます。
 ★介護保険:65歳以上の方
 40~64歳の特定疾患をお持ちの方
 ★医療保険:年齢に限らず利用可能
 介護保険利用者でも主治医より特別訪問看護指示書の交付を受けた方
 ご相談は、ケアマネジャーまたは当ステーションにお問い合わせいたします。(管理者:風間裕) TEL0234-28-8166

第6回

育児に奮闘

庶務課 東海林 佳奈

さてそれでは皆様今年度も体には気を付けて、交通事故にもくれぐれも注意をしながら頑張つてまいります。どうぞよろしくお願いたします。